

サ

ロ

ン

出 会 い ふ れ あ い 助 け 合 い

あべの

NO.75

今年も大盛況

あべのカーニバル

さろん亭

サロン・あべの八月の出会い

平成四年八月二日(日)、毎年夏の恒例行事としてすっかり定着した、阿倍野区民のお祭り「あべのカーニバル」が盛大に開催された。お天気が少し心配されていたものの、本日に暑い一日であった。

午後三時から大阪市立工芸高校のグラウンドに於いて開催された「あべのカーニバル」も今回で十九回目を迎えた。その会場の中、『なんでも市通り』と銘打たれたバザー店の並びのほぼ中央に、「サロン・あべの」のお店『さろん亭』が開店した。

サロンは今年も売り場を二区画分確保。テントも先にお借りしていたので、商品を搬入しては早速陳列を開始することができた。昨年以上の売り上げを目標に販売を始めたものの、やはり『さろん亭』の大番頭である、石田氏(療養中)の姿が見えないのがとても残念であった。

「あべのカーニバル」に毎年出店している『さろん亭』は、「サロン・あべの」にとって一年に一度だけのバザー店である。収益を上げて、サロンの活動資金に充てる



ことも大切な目的ではあるが、それ以上に大切なのは、このバザーを通じてサロンの輪を広げることである。この日のために物品を提供して下さる方々。また、当日買ってくださる方々。運搬、値付け、販売等のお手伝いをしていただく方々。毎年このながら、「サロン・あべの」が本場に多くの方々に支えられていることを実感するときでもある。

広いグラウンドもリサイクルのコーナー、緑化推進のコーナー、防犯、防火を呼び掛けるコーナー、折紙や手作りおもちゃを染しむ子供プラザなどが立ち並んで、とてみにぎやかである。そして会場中央の舞台に目を移すと、プラスバンドの演奏や、阿倍野警察署による寸劇、ボーイスカウトの手旗信号の実演などが行われていた。そして今年のメインである、阿倍野区と姉妹提携の岡山県神郷町の方々による「神郷太鼓シヨ」。そのほかにも、歌謡シヨやカラオケ大会、民謡総おどりなどが行われ、今年の「あべのカーニバル」は幕を閉じた。

熱い！ 温かい 値札付け

辻本輝子

蟬しぐれと共に夏本番。

さろん亭の開店を明日に控えた八月一日の午後、冨田さん宅に汗をふきふきサロンの仲間の元気な顔が揃いました。

皆様からの温かい寄贈品が居間に溢れ、サロンにとっての素晴らしい財産です。

これも委員の皆さん方の尽力で年を重ねて、サロンで育んだ花が大きな実を結んだのだと感激しました。

各家庭で眠っている品を生かして、活用していただければ、これ以上のやりがいはありません。品物は、高尚な置物、ブランド商品、手芸品、日常欠かせぬ石鹸、タオル、家庭用品等々。

その品々の蓋をとりながら

「まあ、素敵」

包みを開いて

「わぁ、可愛い」

「これ、欲しい」



と楽しみながら、百円の値札をペタン、五百円の値札をペタン。

皆様に喜んで買っていただける様に、期待を込めて値札を貼る手に入ります。

十一人のチームプレーで、どこから手着ければと躊躇した品物の山も次々と値札が付き、分類整理されて行きます。

暑さを忘れての敷時間を共に持てた事が、一夏の良い思い出となりました。

ひと休みには、冨田さんのお母様のお心遣いに、ホッと涼を取り、明日の盛況と快晴、爽風を祈りつつ、お疲れさまと、開店準備を終了しました。

さろん亭を手伝って

木村 圭子

八月二日、日曜日午後二時より「あべのカーニバル」名物催し、さろん亭が開店され、お手伝いの仲間に入れていただき、ありがとうございました。

阿倍野区にある府立工業高校のグラウンドには、いくつものテントが並んでいて、その中にハサロン・あべのVのさろん亭を見

つけ、お手伝いをしました。

沢山の品物を並べながら、品物を寄贈された人、これまでの大変な準備をされた委員会の人達のご苦勞に報いる様がんばらなければと心しました。が、初めての売り人で少し不安もありました。

奈良からおいでの中岡久美子さんのお母さんと一緒に「安いですよ。安いですよ」「お買徳ですよ」と、笑顔で売り込みました。大勢のお客さんが品定めをしながら、上手に買って行かれる。私も欲しいと思っ

ている間に無くなっていく。次々と飛ぶように売れ、大繁盛でもとも賑い、気がつけば随分と時間が過ぎていきました。この年齢で、八月の太陽に負けないうら、熱い光る汗を流し大勢の人と出会い、ふれあい、幸せな気分。少しも疲れを感じないのが、嬉しくありがたく思いました。来年も元気に参加出来ますよう、希っております。よろしく、お願いします。



さろん亭 御礼

「さろん亭」を開店するにあたり、年間を通して品物を届けて下さる方、集めて下さる方、又、暑い中を搬入や販売のお手伝いをして下さった方々等、多くの皆様方にご協力いただきました。

本当にありがとうございました。お蔭様で、今年も賑いのあるバザーを開

催する事が出来ました。

○「さろん亭」に、ご協力下さった皆様。

赤松、旭 純子、阿倍野区肢体部カーク

ラブ(赤松憲二・竹下秀樹・吉田 毅)、

網谷保子、石田 律、伊勢村和子、岩井

徹、上田妙子、上平幸雄、宇野律子、大高

澄子、大塚一枝、岡田浅吉、岡本登志子、

小川 哲、加賀谷 正、柿岡 緑、角方、

笠原美和子、金岡千恵子、金子花江、河合

恵子、北野みどり、木村圭子、蔵田、小泉

田恵子、小西容子、斉藤良造、阪口文夫、

皿谷千秋、鹿野敬一、ジョイフルたばこ阿

倍野ユニオン、杉山篤枝、大丸昭典、高尾

澄男、竹村定子、田中マサエ、辻本輝子、

手島八重子、富田慶子・十一・実幸、中岡

久美子・母、中川、中西利香、中原友喜、

南光龍平・仁子、西 和子、長谷川マキエ、

花谷のり代、浜 康子、林三起子、原田

仁、東谷和代、日高香世子、蛭子フサエ、

藤井しおり、前田裕子、町野旬子、松島春

子、丸山寿美子、三木法子、水戸春子、八

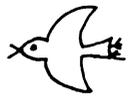
木千代子、柳生幸子、山口弘子、山梨徳治

山本愛子、山本篤江、山本鈴子、山本敏子、

山村貴司、若林幸子、吉原和朗、匿名八名

(敬称略)

僕の近況



齊藤 孝文

僕が通っている夜間中学は、普通の中学と比べて十日程長く授業がありました。

夏休みは、色々な計画があつて忙しい毎日になりそうです。

たとえば、映画とか、桂べかこの落語会とか、プールなどにも行きます。

本当は、「青い芝の会」のキャンプにも行きたいと思つていたのですが、この前の

夜間中学の打ちあげのとき、悪酔いをしてしまつて胃薬を飲んでいる状態なのです。

介護者もちゃんと見付かっているのですが、体調を重んじたいなあと思つています。な

にしろ、酒を飲めないキャンプなど行つても面白くありません。当分の間、酒は慎みたいと思つています。まあ、酒のかわりに

毎日出歩くから、ストレスもたまらないことでしょう。

もっと、夜間中学の話を詳しく書けば、外国人が九ヶ国から来て、色々な授業を受けています。

僕も、月曜日は国語、火曜日は英語、水曜日は時々だけ歴史、土曜日は理科などの授業を受けているので、知識豊富になりそうですが、それがなかなかです。

この年になるとすぐ忘れてしまつて、だめだなあと後悔しています。

各授業の先生は、年齢幅もあつて楽しい教え方をして下さいます。

国語の先生は、六十過ぎのおじさんで、外見は暴力団の組長の様なのですが、優しい紳士だし、差別問題にも真剣に取り組んでくれている人です。

火曜日の先生は、女の人でいつもここにこして、ユーモアたっぷりに英語を教えてくださいます。

水曜日の先生は、とても朗らかで以前にうつ病を患つた人とは思えない明るい性格の持主です。

土曜日の先生は、何と言つても優しいのひと言につきる先生です。

あとの曜日は、木曜は「仲間の時間」と言つて、みんなの問題や、社会の問題を話合う場や、習字や絵などの時間に使つています。金曜は公開授業といつて、各学校の先生を沢山招いて、夜間中学の見学の日に

当てています。

以上、長々と書きましたが、これが夜間中学の概略です。他にも、「あすなろ」のことなども書きたかったのですが、次回のお楽しみに取っておきたいと思います。また、サロン紙を楽しみにしています。

「おもろい 姉ちゃん」

田淵 美登利

Mさんの盆踊り

八月二十日、砂川センター盆踊り大会が開かれました。

毎年、地域の人達や、寮生さんの保護者の方々、元センターの職員等様々な人達を交えての賑やかな会です。

寮生さんも職員も、浴衣を着て楽しみます。にぎやかな曲が流れ出すと、音楽の大好きなMさんは、「ヤッター」等と大きな声を出して、やぐらの側で楽しそうに踊り始めました。

ところが、踊りの輪が重なって、私を見つけると「ここにいますよ。僕、ここにいますよ。」と手を上げるのです。

たくさんの保護者がいる中、保護者のいないMさんにとっては、少し寂しい思いを味わう日だったようです。

ふれ愛

上平 幸雄

空の旅

②

アメリカに行くのは、今回が初めてではありません。五年前に一度ハワイに行った経験があります。そのときの印象がとても良かったこともあって、もう一度アメリカへ、それもパークレーへ行ってみたいと思っていたのです。

ハワイへはシーズンオフに行きましたので、日本人が少なくとても静かでした。

お年寄りも含めて車椅子に乗った人によく出会いました。建物のアプローチ部分や、歩道の段差もとても良く整備されていました。観光地であることも影響していたのでしょうが、人の目というものが全く気にならないところでした。

今回、その夢がかなってパークレー、サンフランシスコ、ロサンゼルスへと行ってきたわけですが、その詳しい報告には、もう少し時間をいただきたいと思えます。

とにかく、抽選に当たって困ったのは、

介護者探しでした。申込書には妻を介護者として書いていましたが、まだ小さい子供を人に預けることもできず、ほかに介護者を探すことになったのです。ところが、十日間も休める人となるとなかなか難しく、大学生的を絞ってやっとのことでみつかったのです。説明会やパスポート取得に必要な時間を考えるとギリギリのところでした。



∞ サロン・あべの紙の

朗読テープが出来ました ∞

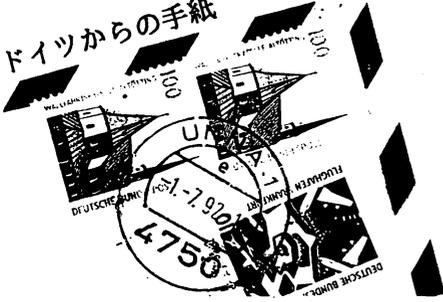
山本敏子さんのご協力で、サロン・あべの紙七四号の録音テープが出来ました。

バックナンバーは三九号から、七三号の分があります。五〇号は五周年記念紙になっており、九〇分と六〇分の二本のテープに収録されています。

サロン紙朗読テープをご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。(☎〇六一六九一一〇二八)

1992年6月27日、ボン

ドイツからの手紙



Bonn, 27.6.92

Dear Keiko!

Thank you very much for your last letter!

Today I write you from Bonn. Here I participate in a psychological training, which I can need for my profession.

Bonn was the capital of West-Germany. Perhaps you know, that Germany was divided in two parts till 1989, in West-Germany and in East-Germany.

In 1989 the Communist Party, which governs in East-Germany, lost people's support. An unbloody revolution followed and West- and East-Germany were united to one state. Now the capital is Berlin. But most administrations haven't go to Berlin yet, because the costs are too great.

I like Bonn. It's a wonderful little town and the home place of my father. I am sorry, because I can stay here only for a weekend.

But there are a lot of weekends which will follow, because the whole training ~~lasted~~ will follow, because the whole training ~~lasted~~ till April 1994. During the day we have training hours, but in the evening I like to walk along the Rhein, the longest and most famous river of Germany.

Since I had time to write you this letter, I hope this letter doesn't boring you. I would like to hear something of Japan too.

With best wishes

Brigitte

親愛なる慶子さん

お手紙ありがとうございました。

今日、私はボンからお便りしています。ここは私の仕事に必要な心理トレーニングに関係があります。

ボンは西ドイツの首都でした。たぶん、あなたはご存じでしょうが、ドイツは1989年まで西ドイツと東ドイツの二つの部分に分かれていました。

1989年、東ドイツを統治していた共産党が人々の支持を失いました。無血革命が起こって、西と東のドイツは一つの国家に統一されました。現在、首都はベルリンです。しかし、政府機関はまだベルリンに移っていません。

(移転の)費用は巨額ですから。

私はボンが好きです。ボンは素晴らしい、小さな町で、私の父の故郷です。残念なことに私は週末しかここにいることができません。けれども、すべてのトレーニングは1994年の4月まで続くので(ここで過ごすことのできる)たくさん週末が来るのですよ。日中はトレーニングの時間ですが、夕方ドイツで一番長くて最も有名なライン河沿いに歩くのが私は好きです。

私はこの手紙をあなたに書く時間を見つけたのですが、あなたがこの手紙に退屈しないように願っています。私もまた、日本について何か聞かせていただきたいですね。

心からの好意をもって

ブリギッテ

Volunteer Center

16

九 ボランティアセンターの機能(各論)

⑧ ボランティアアクションへの援助

ボランティア活動ということばは、どうも一般的には「何かをしてあげる」というイメージが強いようである。人のためにしてあげるのか、自分のためにするのかという問題は別にしても、援助を求めている人に何らかの「サービス」を提供するということが強くイメージされている。

一方、ボランティアアクションというのは、ボランティアの精神に基づいて社会に働きかける行動(ソーシャルアクション)

であり、活動を通じて感じる行政の福祉制度の不備や改善の必要性などについて、運動や働きかけを行っていくことである。

よくボランティア活動と行政の福祉サービスをくらべて、ボランティアの方が心がかもったサービスができるとか、柔軟な対応ができるということがいわれるが、そうした面だけでなく(そして、そのことの是非はともかくとして)、このような制度上の問題などに対してより良いものを求めて働きかけができるということも、ボランティアの良さであり、また、ボランティアならではの重要な役割の一つである。

ソーシャルアクションの面からも、「学習なくして行動なし」ということが非常に重要なのであるが、ボランティアにとって、活動の中でさまざまな問題に触れることが、きわめて実践的な学習の場となっている。



しかし、現実をみると、ボランティア活動が広がっている割には、このような役割についてはボランティア自身の認識も低く、また、行政側もボランティアアクションをするような「うるさい」ボランティアを求めようとはしない傾向が強い。

ボランティアアクションをすすめていくためには、まずはボランティア自身が活動の中にある問題点に気づき、問題意識をもつことが必要であり、それを助けるために学習や話し合いを行っていくことも有効な方法である。ボランティアひとりひとりの声を集めて大きな声にしていくということも、ボランティアセンター(VC)の機能として求められる。

また、ボランティアアクションについての理解を深めて、制度の改善につなげていくためには、行政とVCの間に緊密な協力関係ができていくことが重要である。もちろん、ここで必要なのは「なれあい」の関係ではなく、お互いより良いものをめざした「批判的協力体制」ともいえるべき関係でなければならぬことはいままでもない。

原田 仁

靈(ひ)のつまり木

社会福祉学科では、よく考える学生ほど「助ける」という言葉を使わなくなる。「困った人を助けてあげたい」と熱烈に入学試験の小論文に書いていた学生も、勉強するにつれてかわってくる。

もちろん残念ながら変わらない学生もいる。「救い主願望」ともいうようだが、自分が「救い主」になっている様子を想像して、がんばって勉強するタイプである。善良な学生たちだが、周囲の人たちから拒絶されてしまうことも多いようだ。口には出さないが、職場の人間関係で悩んでいたりする。

それに対して「助ける」という言葉を使わなくなった、あるいはもともと使いたがらなかった学生たちは、ある意味で気負いがなく、もつと対等な目で相手を見つめようとしている。そこまではいいのだが、実際に相手が助けを必要としていると、たいていの場合とまどってしまいうらしい。「助けてあげられるほど、自分は立派な人間では

ない」というのである。

「べつに立派な人間だから助けられない」という問題じゃないんだよ」と私が言うと、助けるための専門の技術とか知識を意味しているのだと理解するのだろうか、「いや、そこまでよく勉強してきませんでしたから。勉強不足です」と、ペコンと頭を下げたりする。

ちがう、ちがう、そういうことじゃないんだと、ぼくは言いかけたが、どういうふうに説明していいのかわからず言葉がでてこない。

「ひと」の語源は、靈(ひ)か、あるいは日(ひ)が止(と)まるということにあるという。「ひと」は靈(ひ)のつまり木のようなものなのだ。ちいさな火(ひ)が互いに近づけば一つになり、より大きく光り輝くように、靈(ひ)もまた、寄り添うことよって力づくよくよみがえるのである。

頭上たかく光り輝く太陽も、マッチをすれば手の中に揺れる炎も、そして身体のなかにあるかぎり身体を温かく

保つ魂も、同じく「ひ」と呼ばれ、むかしの人々は、そこに互いに通じるものを感じていたのだろう。

小さな火が大きな山を焼きつくすことがあるが、それは小さな火そのものに、それだけの力があつたわけではない。マッチの火を大木の幹に押しつけても、それで木が燃え上がるわけではない。マッチの火はきつかけにすぎない。火は、マッチを離れて、まるで独立した意思をもつかのようになり、自分で移る方向を選び大きく成長する。

人には避けられない運命があり、病に陥り、愛する者をうしない、その人の魂の光は、暗く弱いものとなることがある。わたくしたちが、その魂にできることは、その魂に光を与えようとするのではなく(それは神の仕事だろう)、その魂の傍らに自らの魂をおくことではないか。

靈は火(ひ)のようなものであり、寄り添うことよって自ら力づくよくなり、光を増す。しかも、靈は日(ひ)のようなものであり、わたくしたちの頭上のはるか上のところから降りてきたものであり、わたくしたちは、その靈のつまり木にすぎず、その秘めたる

力に思いを及ぼすことはできない。誰かを助けるといふことは、そういうことではないか。とまり木にすぎない私たちが何かをするのではない。霊(ひ)は、炎のように、あるいは太陽

美智子のこんな話



夕食会の大切さ

六月から月に三〜四回、夕食会というものをやり始めました。いつも三時過ぎぐらいから、その日に来て下さっている介助者の方と一緒に、その日のメニューに必要な材料の買い物に行きます。メニューは、障害者が前もって決めておきます。

のように、よりそうことによって輝く生命(いのち)の元である。とまり木にすぎない私たちには、しかし、どこに身をおくか選ぶことができる。力を失っている霊(ひ)に近づ

障害者の多くは、まだまだ食事を作ったりする体験が出来ないし、またしなくてむ人多いようです。親がやってしまったり、スーパなどで買った、ほか弁で済ましたりしてしまったり、施設の中ではまったく作る段階などを見たりすることさえ出来ない状況が多いのです。

私達も、この夕食会で色々(たった三ヶ月ですが)勉強になりました。

例えば、食べる人数に合った分量の見当のつけ方、薄焼き玉子の作り方(カタクリ粉を溶いて少し混ぜるとうまく焼ける)、その薄焼き玉子を早く線切りにする方法、出し汁のとり方、ハンバーグの生地を少しワインを入れたりするなど細かな料理の仕方が色々分かってきました。

そして、又、パセリがどんなものか知らなかったり、ミンチ肉なども知らなかった障害者の人も知ることが出来たりしていま

き共に輝こうとするのか、それともひとり離れて燃え尽きるのか。「ひ」の「と」まり木である「ひと」の重さを思い、私たちのなかの「ひと」を敬いたいと思う。(知)

す。さらに私は、サマーシチューなどを作ってみたり、狭いメニューの幅を広げていき、人数が分かれば分量も見当がつくようになりつゝあるところまで。今迄は、料理の本と首っ引きだったけれど、どうにか離れられそうです。

もっとも、これからも日常的に介助者の人と一緒にやっていきたいと思っています。なぜならば、今迄の障害者運動は、介助の問題、所得保障、街づくりなどが一般的に取り組まれてきましたが、その中心となる障害者の生活を日常的に支えていく食生活の面などは、とり残されてきたと思います。日常生活の基本である健康管理や食生活などの分野にも、もっともっと重度障害者も興味を持って取り組んで欲しいなあと最近感じています。

障害者も生きている限り、食べていかなければならない訳ですから・・・。

おしらせ

十月の出会い

日時 十月十七日(土)午後一時〜四時
内容 「歯と健康管理」

大阪府立身体障害者福祉センター
付属病院歯科部長 歯学博士

西田 百代氏

場所 育徳コミュニティセンター二階

「大阪市阿倍野区阪南町五十一
二八・スロープ有り」

会費 なし

問い合わせ先 TEL. 06-691-1028 (富田慶子)

井 感謝 します 井

カンパ・冊子・バザー用の品・菓子・飲
み物等ありがとうございます。

お礼を申し上げます。

八月のカンパ 金二六、五五五円

小倉寛一、鹿野敬一、

ジョイフルたばこ阿倍野ユニオン、

八木千代子、山本鈴子、山本敏子、

匿名五名。(敬称略)

あべのカーニバル・なんでも市通りで、

開店した「さろん亭」は、次の様な売り上
げ金を得る事が出来ました。

ご協力、ありがとうございます。

金、一一二、一三六円

△サロン・あべのV運営委員会・会計

「新聞リーディングサービス」

NTTの女性退職者で組織された「NTT

Tともしびの会」会員によって、目的の不

自由な方々に、電話を通じて新聞を代読

する「新聞リーディングサービス」が行わ

れています。読み上げるサービスは、無料

ですが、通話料は有料となっています。

○、サービス内容

新聞五紙(朝日・毎日・読売・産経・

日経)の代読と、意味不明の「単語」

の問い合わせには、辞典を引き内容を読

みます。

○、サービス提供日時

月曜日〜金曜日の午前十時〜午後四時

○、受け付け用電話 (祝日、新聞休刊日、年末年始は除く)

(〇六)三四五-三四五五(代)

編集後記

暑い、暑い
といていた

たのに、いつの間にかちょっと秋らしく
なってきました。ずっと前に「まちづく
りのはなし」で書いたことがあるんです
が、あまりの突然の美しさにはっと立ち

止まった秋の通り道を、今年はまた見に
いってみようかなと思っています。

「ナンペイのひとこと&ふたこと」「あ
っちゃんのシングルライフ」は今月お休
みしました。(は)

編集人；サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>NO.75[92. 9.19 発行] 定価¥100.
代 表；上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-20-19-203 電話06-621-4365
連絡先；富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26. 電話06-691-1028
表 題；斉藤孝文・筆
印 刷；セルフ社〒545 大阪市阿倍野区西田辺町2-2-10-101. TEL.06-691-2365.